歴史地理学調査報告　第7号　155～161　1996

定峰の小字地名と家号

小久保隆男

秩父市大字定峰は秩父市域の東端にあり，秩父盆地と武蔵丘陵とを区切る山稜の山腹に位置する。この山稜は北は大霧山から旧定峰峠，そして定峰峠から大野峠に連なる，標高600～700ｍの山々である。集落の大半は南向き斜面に立地するが，高篠山を挟んでいるため秩父盆地を望むことはできない。

定峰の集落は３つの「耕地(コーチ)」からなる。標高300～400ｍに定峰川に沿って分布する下耕地(現17区)，さらにその上流の斜面に点在する家々は中耕地(現18区)，そして定峰峠いたる急峻な山腹にある上耕地(現19区)である。土地の人の意識のなかでは，「定峰」の範囲は，定峰川の両岸という認識がある。しかし，実際の行政上の区域では定峰川の右岸，北側の山地斜面であって，左岸は大字山田の地籍が大半を占める。また，右岸の定峰のなかにも大字栃谷の飛び地もいくつか混在している。江戸時代の定峰の戸数はおよそ70～80戸の間で推移し，現在も80数戸と大きな変動はない。

定峰という地名の成立年代は明らかでなく，その由来も不明である。これまで中世の「貞延郷」からの転訛であろうとする見解が示されてきたが[1]，なお検討の余地が残されている。14世紀のはじめ，貞延郷は武光・恒用・守安・直弘の各郷とあわせて大宮郷の妙見宮拝殿造営をまかなう五ヵ郷のひとつであった。これらの郷名はいずれも名田開発者の実名によるものと考えられており，貞延郷についても，平将門の弟，将平の臣であった磯田貞延とされている。磯田貞延は天慶年間，将門の乱の後，この地に落ちのびて野栗明神を祀り，開発領有したという。

小字名と家号の一覧

この谷に100個ばかりの地名と，50個ほどの家号がある。土地に生活する人々が，ある土地，ある家を特定するためにいつとはなく呼びならわしてきたものである。今，地名も家号も，番地などの数字で表されてだんだん使われなくなってきたが，ここに定峰についての調査記録を一覧として掲げる(第１表・第１図および第２表・第２図)。なお，ここでは大字栃谷の飛び地と定峰川左岸の大字山田区域をも含めた。

「あんば」と「野栗さま」

中世，貞延名の名主であったとされる磯田貞延の子孫は，今，小字「あんば」に住む家号「上あんば」「下あんば」の磯田姓２軒とされる。この「あんば」はおそらく「庵場」であろうと思われる。この磯田両家の近くには明治期までお堂があり，そこの坂を「ほうえん坂(法印坂)」といったことからも推定される。

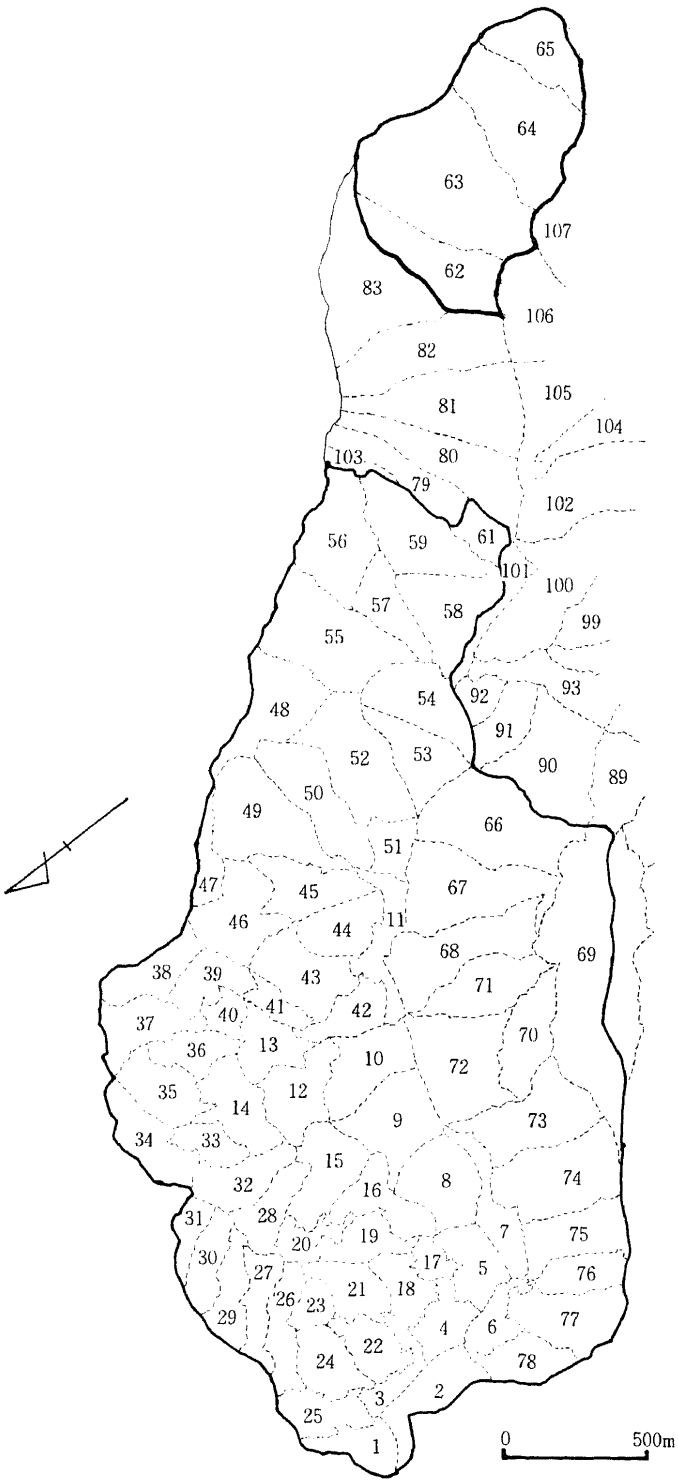
定峰の磯田姓にはこのほかに，家号を「梅の木」，「おおげえ」とする磯田家がある。「梅の木」磯田家は鉢形の落武者といわれ江戸時代初期の落居とされ，「おおげえ」磯田家の墓もそのころに始まる。もっとも，定峰の墓は元禄年代に始まるものが古いほうで，江戸時代以前の年号のはっきりしたものはなく，墓によって居住の始期を知ることは難しい。

ところで，『新編武蔵国風土記稿』は磯田貞延についてつぎのように記述している。

> 或は説に，郡中石間村に往古御厨三郎将平居城を構へしに，経基朝臣の為に城陥とぞ。爾時亡命のもの当村に潜匿して，野栗明神を茲に祀ると云。今もかの党の末葉あり。

第1表　定峰谷の小字一覧

大字	小字	小字読み	番地	第1図中番号
定峰				
	片瀬	かたせ	1～ 62	1
	揚石	あげいし	63～ 101	2
	坂東	ばんどう	102～ 132	3
	坂本	さかもと	133～ 178	4
	上坂本	かみさかもと	1323～1324	5
			179～ 222	
	宮の木	みやのき	223～ 243	6
	尾舞	おまい	244～ 268	7
	西	にし	269～ 327	8
	下平	したびら	328～ 405	9
	安場	あんば	406～ 478	10
	雁胯	かりまた	479～ 528	11
	大戸	おおと	529～ 577	12
	久保田	くぼた	578～ 604	13
	権現堂	ごんげんどう	605～ 650	14
	東上平	ひがしうえびら	651～ 712	15
	上平	うえびら	713～ 780	16
	七曲り	ななまがり	781～ 786	17
	坂本山	さかもとやま	787～ 795	18
	林の沢	はやしのさわ	796～ 803	19
	中林	なかばやし	804～ 814	20
	坂東山	ばんどうやま	815～ 826	21
	笹山	ささやま	827～ 839	22
	高畑ケ	たかんばたけ	840～ 847	23
	舟久保	ふなくぼ	848～ 875	24
	押ス場	おすば	876～ 889	25
	一の沢	いちのさわ	890～ 907	26
	二の沢	にのさわ	908～ 919	27
	御伊勢の後	おいせのうしろ	920～ 930	28
	三の沢	さんのさわ	931～ 944	29
	四の沢	しのさわ	945～ 954	30
	鴨畝	かもおね	955～ 963	31
	細久保	ほそくぼ	964～ 970	32
	西平	にしっぴら	971～ 980	33
	雨乞岩	あまごいいわ	981～ 993	34
	宮城	みやしろ	994～1004	35
	梨の木そり	なしのきそり	1005～1012	36
	白地久保	しらじくぼ	1013～1020	37
	立岩	たていわ	1021～1031	38
	鬼の平	おにのたいら	1032～1044	39
	関の入	せきのいり	1045～1053	40
	佐倉	さそう	1054～1055	41
	後沢	うしろさわ	1056～1066	42
	大谷	おおげえ	1067～1088	43
	長畑	ながばたけ	1089～1097	44
	おっかど入	おっかどいり	1098～1104	45
	杉の沢	すぎのさわ	1105～1113	46
	潰山	つぶしやま	1114	47
	ぞんげ	ぞんげ	1115～1117	48
	やながま	やながま	1118～1126	49
	細萱	ほそがや	1127～1136	50
	厚畑	あっぱた	1137～1148	51
	フタニタ	ふたにた	1149～1154	52
	菖蒲久保	しょうぶくぼ	1155～1156	53
	小釜	こがま	1157～1160	54
	マジノタワ	まじのたわ	1161～1165	55
	汁谷	しるだに	1166～1167	56
	天狗山	てんぐやま	1168	57
	石くど	いしくど	1169～1171	58
	雲雀畑	ひばりばたけ	1172～1175	59
	岩窪	いわくぼ	1176～1177	60
	白木	しらき	1178～1179	61
	ナブリヤ	なぶりや	1180～1184	62
	梨の木サク	なしのきさく	1185～1189	63
	栗の木	くりのき	1190～1193	64
	萩のそり	はぎのそり	1194～1195	65
	滝の沢	たきのさわ	1196～1213	66
	栗山	くりやま	1214～1225	67
	熊の沖	くまのおき	1226～1237	68
	登坂	とっさか	1238	69
	柴立	しばだち	1239～1240	70
	芋畝入	いもおねいり	1241～1246	71
	向山	むこうやま	1247～1253	72
	榧の木沢	かやのきざわ	1254～1266	73
	大平	おおひら	1267～1277	74
	罠場	わんなば	1278～1287	75
	カワコ岩	かわごいわ	1288～1294	76
	釜の入	かまのいり	1295～1310	77
	宮の木入	みやのきいり	1311～1321	78
栃谷（定峰地内飛び地）				
	ヒトムラ木	ひとむらき	1670	79
	白木	しらき	1671～1672	80
	長みぞ	ながみぞ	1673～1674	81
	下なぶりや	しもなぶりや	1675～1676	82
	上なぶりや	かみなぶりや	1677	83
山田（定峰川の南側）				
	横木山	よこぎやま	4384	84
	中の萱	なかのかや	4385～4386	85
	二本椚	にほんくぬぎ	4389	86
	登ツ坂	とっさか	4391	87
	立場	たてば	4392～4393	88
	荻の久保	おぎのくぼ	4395	89
	瀧の沢	たきのさわ	4396～4397	90
	山の神	やまのかみ	4398～4400	91
	炭伏場	すみふせば	4401～4403	92
	柿木谷	かきのきやつ	4404～4407	93
	堂飯釜	どうはんがま	4408	94
	ウトウ栗	うとうぐり	4409	95
	横見山	よこみやま	4410	96
	抜釜	ぬきがま	4411	97
	板挽場	いたひきば	4412	98
	尻なし	しりなし	4413	99
	手前長小根	てまえながおね	4414	100
	さかさうす	さかさうす	4415	101
	向長小根	むこうながおね	4416	102
	ウバン沢	うばんざわ	4417～4418	103
	栃久保	とちくぼ	4419～4420	104
	堂久保	どうくぼ	4421～4423	105
	小鍬鶴	こくわづる	4424	106
	破風	はっぽう	4425	107
	浦長芳	うらながよし	4426	108
	三石日影	みついしかげ	4427	109



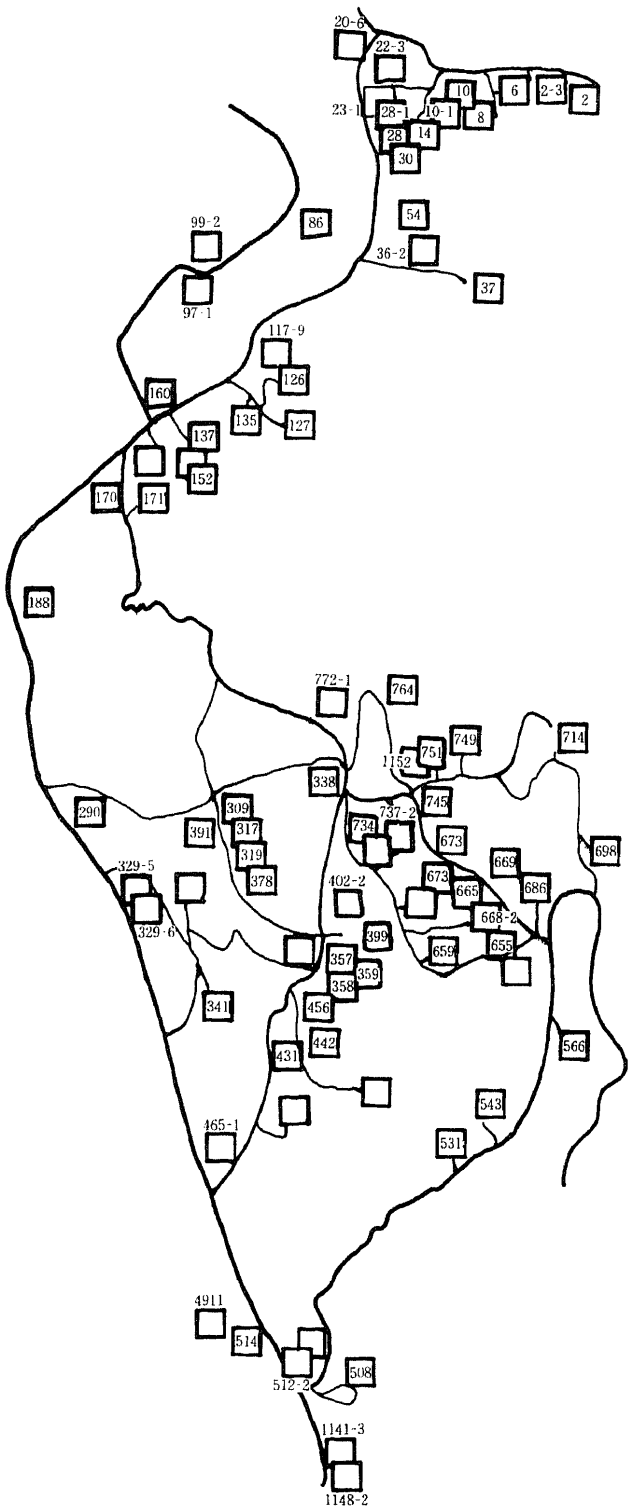
第１図　定峰の小字一覧図

注）番号は第１表における地名数字と対応する

第2表　定峰の家号一覧

家　号	世　帯　主	小　字	番地
１７区			
西の下	内田　博芳	（西）	290
（かさ）	飯塚　シナ	（上坂本）	188
尾舞・おめえ	飯塚　仁	（尾舞）	245
天上(元上平)	清水　嘉夫	（坂本）	170
中	新井　一夫	（坂本）	177
（うわで）	（新井元次郎）	（上坂本）	
したで	加藤ハナエ	（坂本）	172
飯塚かみ	飯塚　吉男	（坂本）	152
飯塚しも	飯塚ツチノ	（坂本）	150
	加藤喜久治	（坂本）	169-1
なつうち	新井　米	（坂東）	126
夏内新宅	内田　憲二	（坂本）	135-1
	飯塚　俊夫	（坂本）	137
	加藤　ヨシ	（揚石）	97-1
	戸口　孝輔	（揚石）	97-1
昭和院	松井　瑞雲	（宮の木）	223-1
坂東	新井　秀夫	（坂東）	127
あさひや	新井　稔	（坂本）	160-3
ふなくぼ	小崎　喜助	（片瀬）	38-3
ふなくぼ	小崎　清	（片瀬）	54
下田(分家)	新井　治助	（坂東）	117-4
	小崎　正行	（片瀬）	30
	小崎　忠治	（片瀬）	36-2
（おめえ）	大野	（片瀬）	
せど	小崎今朝市	（片瀬）	3-4
鍛冶や	大野　かね	（片瀬）	6
下田	新井トミエ	（片瀬）	10-2
	長井　時俊	（片瀬）	23-1
	島田　彰助	（片瀬）	8-5
	新井　和	（片瀬）	10-1
	小崎　敏伸	（片瀬）	14
板金	柳田　善吉	（片瀬）	20-6
	柳　利夫	（片瀬）	22-3
	島田　雪江	（片瀬）	28-1
	島田　賢一	（片瀬）	28
	吉田　通徳	（片瀬）	2
	柳橋　房江	（栃谷入）	栃谷1271
１８区			
あっぱた	小久保長作	（厚畑）	1148-2
あっぱた	坂本　峰男	（厚畑）	1141-3
二軒家・本家	坂本　鉄蔵	（雁脇）	508
（昔二軒家）	坂本	（雁脇）	
隠居	坂本　広	（雁脇）	510
新宅	坂本　順一	（雁脇）	512-2
鳥山(店名)	斎藤　芳夫	（雁脇）	514
吉祥院(寺院)	大村　日謙	（雁脇）	491
お堂	亀井　武治	（下平）	354
下あんば	磯田　利章	（安場）	431
上あんば	磯田保太郎	（安場）	442
中尾根	関根　朝司	（安場）	470
	黒沢　忠夫	（安場）	465-1
	道沢　昇	（安場）	456
東沢	小久保節義	（下平）	357
うちで	島田カツヨ	（下平）	399
あら屋敷	関根　岩夫	（下平）	402-2
さす	坂本　三次	（下平）	341
	遠田今朝市	（下平）	358-3
東がいと	関根　彦治	（下平）	359
川原	島田ケイ子	（下平）	329-5
向	若林　和夫	（下平）	329-6
向の下	小久保守明	（下平）	336
あら屋敷	小平　貞夫	（小平）	391
西	清水　宮作	（西）	317
	小林　省一	（西）	308
（大谷）	（磯田）		
（下大谷）	（坂本）		
（孫太屋敷）	（向山・孫太）		
（かくぼ）	（坂本）		
（西）	（神田）		
（東坂）	（小久保）		
１９区			
大戸・うわで	若林　定雄	（大戸）	543
前大戸・下で	小泉　浅吉	（大戸）	531-3
梅の木	磯田今朝市	（大戸）	566
番匠屋敷	小泉　一郎	（東上平）	655
中のかいと	小久保みち子	（東上平）	659
	小泉竹次郎		
	柳田　勇	（東上平）	655
ほかがいと	小久保重夫	（東上平）	669
にほぎ	小久保金太郎	（東上平）	686
与重さんち	小久保　清	（東上平）	668-2
友さんち	小久保友吉	（東上平）	663-4
岩下	小久保一馬	（上平）	737-2
（元天上）	清水　嘉夫	（東上平）	
隣・下の隣	小久保宇太郎	（東上平）	669
池の端	小久保守作	（東上平）	673
新宅・隠居や	小久保一雄	（東上平）	665
高手	小久保順正	（上平）	714
上	小久保　諭	（上平）	749
前田	小久保幸七	（上平）	730
隠居	小久保貞次郎	（上平）	745
	金井堀次郎	（東上平）	671-3
おめえ	小久保隆男	（上平）	752
せど	小久保清吉	（上平）	751-2
ちぎょうね	小久保彦人	（上平）	764
きどじ	梅沢　勝夫	（下平）	338
（下きどじ）	若林喜代作	（上平）	（横瀬）
さかや	小久保敏夫	（上平）	734
さかや	小久保喜一郎	（上平）	734
	金子　晴治	（上平）	772
（庄八）	（小久保）		

注）家号欄の括弧内は昔あった家号を表した。
このほか、もと家があって、今わからないものがある。
１７区　ムジナ岩(飯塚)　宮の木(内田)



第２図　定峰の屋号分布

注）番号は第２表における地名数字と対応する

さらに，『高篠村誌』は知名人物伝の項では磯田貞延を，「天慶年間(938－946)ころからすでに定峰に住むと伝えられる。磯田貞延は石間村幡武山の城主であり，天慶の乱で雄図むなしく誅せられた平将門の実弟，御厨三郎将平の家臣であった。天慶の乱により志やぶれた平将門一族は，ほとんど討ちほろぼされた。秩父地方にも吉田，大滝，荒川などに将門，将平の伝説がおおく残されている。主家滅亡と共に貞延は定峰にきて土着し農民となった。定峰開拓の祖という。定峰は昔は貞延といったのが，いつしか定峰となったとの説もある。当地に現存する野栗明神は，貞延の勧請したものと伝える。現在の磯田保太郎家，磯田利章家はその裔という。」と記録している。

現在，「上あんば」「下あんば」の磯田両家には，江戸時代以前の文書や碑石等はないが，両家が祀り伝えてきた野栗明神がある。将門を祀ったという野栗明神は，神流川支谷の山中領野栗沢(現群馬県上野村)に始まるとされる。また，秩父地方における「野栗」地名は横瀬町横瀬に，「野栗石」は吉田町久長にあり，家号は荒川村日向上平の千島家がある。

この野栗明神と隣村栃谷との境界にある揚石の桔梗伝説とが平将門一門の落武者であることを今に伝えている。定峰の野栗明神は昭和後期から18区の耕地持ちとして，祭礼となおらいがおこなわれている。

「うちで」と「宮城」と「権現堂」

「うちで」という家号や地名も秩父地方にはあちこちに散見できるものの，その由来や理由は必ずしも明らかでない。

定峰の「うちで」(島田家)は甲斐国の神官で武田家に仕え，主命により，武田家の守り本尊であった弥陀三尊像および氏神であった稲荷明神，信州の諏訪神社の御分体を奉じて定峰に来住したと伝えられる。島田家が定峰に居を定めた年代は明らかではないが，この仏像はいまなお伝存されている。また，島田家は白明山雲龍院(男衾郡鉢形領甘粕村泉福寺末，臨済宗)を檀那寺としたが，その開基禅興恕江が天文18年(1549)に没していることからすると，武田家の秩父谷侵攻(いわゆる信玄焼)との関連が推測される。

一般に，「うちで」という家号については「主命を奉じて他領あるいは郷にあり，命によって討ち出る武者」だとか，「検地にあたって一番縄(あるいは間尺)を打ち出したところ」とか「命令を発するところ」というが，はっきりした伝承はない。

秩父地方の「うちで」家号と地名については次の事例をあげることができる。ここにあげた諸家の分布をみるといずれも秩父谷の要所にあることから，戦略的拠点としての説明も充分頷けるように思われる。

「おめえ」と定岳寺

定峰には家号「おめえ」が3軒あった。17区に2軒，19区に1軒である。

17区の2つの「おめえ」は，飯塚家と大野家である。今日，定峰のなかに飯塚姓は5軒あるが3系統から成るといわれ，「おめえ」に属する家は「飯塚しも」と「かさ(旧家号)」で，「飯塚かみ」と飯塚毅家(幕末の百姓代，剣術道場)はいずれも旧家であるがそれぞれ別系統であるといわれる。「おめえ」飯塚家は「尾舞」として地名にもなっている。

大野家は字「片瀬」にあって貞享元年(1684)からの墓石があるが，大正期以後，定峰を転出した。現在も片瀬には大野氏とその縁者が数軒あるが，「おめえ」大野家は本家であったと思われる。片瀬にある正徳4年(1714)の弁財天石像に刻まれた銘には，大野氏，小崎氏などの名を認めることができる。

19区の「おめえ」は小久保家である。江戸初期に落居して山間に戸数をふやし，その一族から名主を出している『新編武蔵国風土記稿』によれば，来歴は岩槻太田氏の臣の小久保縫殿之助といい，岩槻の出城である足立郡代山城(現浦和市代山)の城主であったという。天正18年(1590)に落城してからどんな経緯を経て定峰に落ちついたのか明ら

かではないが，曹洞宗関三刹の一，越生郷龍穏寺20世撫州春道和尚の采配によったのではないかと思われる。春道は秩父氏出身(阿熊彦久保氏)で，八ヶ寺を開き，寺社奉行諸問席として三代将軍家光に重用され，落武者の更正に尽くしたといわれる。小久保家開基による定岳寺について，『新編武蔵国風土記稿』は小久保家と撫州春道和尚との関係を次のように記している。

> 定嶽寺小名上平にあり，岩尾山と号す。曹洞宗人間郡越生郷龍穏寺末なり。中興法流開山本山廿世撫州春道，正保三年七月廿五日寂せり。開基は小窪縫殿之助，明暦元年に歿す。その子孫今に村民なり。本尊釈迦，境内除地二反二畝。

ここには中興法流開山とあるから，それ以前に寺院が存在したのであろうが明らかではない。定岳寺2世好外盈雪和尚は龍穏寺30世であるが，この間過去帳(霊簿日鑑)は書き継がれているから僧侶はいたのであろう。

定岳寺域に開山塔と並ぶ開基縫殿之助の墓は定元院と円光院の夫婦であり，裏面には小久保久兵衛信貞とある。代山落城から数えて久兵衛父(樹山源緑居士)の死は58年後であり，久兵衛の死は65年後であるから，久兵衛は縫殿之助の子息か孫であろう。なお，縫殿之助家は以後何代か晩年は久兵衛をとなえている。

「おめえ」小久保家は，定峰に土着当初，少なくとも寛永期以前には，まず家号「池の端」小久保家を分家し，さらに次代には「うえ」と「ほかがいと」を分出した。今日，小久保姓の間では「おめえ」を含めたこの4家を「四本家」と呼び，そのなかでも「おめえ」を「総本家」という。慶安4年(1651)と承応元年(1652)の年貢割付状には「おめえ」久兵衛が定峰村名主としてあらわれるが，翌承応2年からは女婿の「うえ」の権左衛門が名主となり，幕末まで世襲した。

ついで，「おめえ」からは「ちぎょうね」「たかて」「栃谷入り」「岩下」の家々が，「池の端」からは「中のかいと」が，「うえ」からは「下ン隣」の家が分家した。第2次分裂である。さらに，「下ン隣」の久右衛門が「にほぎ」の跡目を相続し，「おめえ」の系統から「隠居」「さかや」が，「中のかいと」からは「庄八屋敷巳之吉」が分かれた。小久保家の氏神，若宮八幡宮の嘉永2年(1849)の棟札には小久保姓14軒の名が並んでいる[2)]。

注

1) 定峰が中世の恒持庄に属し，大宮郷妙見宮の拝殿造営役をまかなった5ヵ郷のひとつの貞延郷であろうとする推定は，すでに『新編武蔵国風土記稿』の記載にみられる。また，『高篠村誌』もその伝説の項において，「定峰の草創けは，磯田貞延といわれている。貞延は定峰に転訛した」とあげている。
2) このほかに「東坂」にも1軒あった。